

公民的分野 学習指導案（公開授業Ⅰ）

指導者 松江市立第二中学校 教諭 小笹 寿美

1. 単元名 民主主義とは何か ～現代の民主政治を評価する～

2. 単元目標

現代社会を評価することを通して、民主主義の推進について多面的・多角的に理解する。

3. 単元構想

（1）教材について

本単元は、民主政治についての基礎的な知識を身に付けるとともに、主権者として政治に参画する意欲や態度を身に付けさせる重要な単元である。学習指導要領解説には、社会科の基本的なねらいとして「民主政治の意義を国民主権という立場から国民生活と関連付けて具体的にとらえさせるとともに主権者として政治に参加する意義を自覚させることを通して、政治についての見方や考え方の基礎を養うことにある。」とあり、国民主権を担う公民としての基礎的な知識を定着させ、思考力・判断力などを育てる機会となる。

「民主主義」は現代社会における重要な概念であるが、太平洋戦争への反省から戦後においては、「疑いの余地のない絶対的な価値」であるかのように扱われることが多かった。しかし、民主主義を大切な価値としてきたにも関わらず、近年若い世代の政治離れが投票率の低下という形で現れ、空気のようにあって当たり前の価値となり、主権者の手で守り高めていくという意識が薄れている。一方で、政治に対する不信感や無力感から、民主主義に意義を見出さない風潮もある。中学3年生は、政治の仕組みについて初めて本格的に学習し、3年後には選挙権を得る年齢であり、民主主義の意義についてしっかり考え、将来の自分自身の政治参加についての態度化につなげることの意義は大きい。

（2）生徒について

<個人情報保護のため省略>

(3) 指導について

① 「単元を貫く問い」と単元構造

生徒はこれまで政治についての体験を学校生活の中で、生徒会活動などを通して学んでいるが、実際の社会に関わった経験はほとんどない。そこで、生徒が使うことのできる概念的な知識や価値的な知識は、これまでの学習内容の中にあると考えた。その中でも、歴史的分野で学ぶ大正時代から昭和 20 年までの、民主主義の発展と崩壊の歴史は、日本国民にとって民主主義を維持していく上での教訓となっており、「二度と戦争の惨禍を繰り返さないために、民主的な社会を築く」ことが国民の責務であると考えられている。したがってこの単元は、獲得した概念や価値を他の単元で活用しやすいだけでなく、生徒も関心が高く、意欲的に追究できると考える。

そこで、近代史の学習の中で民主主義をキーワードとして授業をすすめ、第二次世界大戦の単元では、「民主主義が発達してきた昭和初期に日本は戦争に向かった。その時、政府や国民の力で戦争をくい止めることができなかつたのはなぜだろうか。なぜ、中国とアメリカとの戦争という道を選択してしまったのか。」という課題を追求し、多面的・多角的に答えを求めまとめた（後述、別紙①）。この中から、民主主義に関わる価値を導き出した（後述、別紙②）。アジア・太平洋戦争の学習に関心をもって取り組んできた生徒にとっては、これらの価値がゆがめられた時日本は、「中国やアメリカと戦争をする」という悲惨な結果をもたらす選択をしてしまったという事実を想起することになり、今後民主主義をより良いものにしていくためには一つ一つの価値が非常に重要だという意識につなげることができる。

本単元においては、直接民主制と間接民主制、選挙制度、政党政治、世論とメディアリテラシーについて学習した後、歴史学習の単元のまとめで導いた価値や本単元で獲得した概念から、民主主義を維持するのに必要な価値を見出して、「民主主義評価基準シート」を作成する。そして、「現代の社会を民主主義という尺度で測った時に問題がないだろうか」ということを考えさせる活動を通して、身近な問題の中にも、かつて戦争につながってしまった重大な問題が内在していることに気づかせ、最終段階では、民主主義をより良くするために主権者として自分は何をすべきかを考えさせたい。

② 学習活動の工夫

「主体的に取り組む態度」とは、民主主義がゆがめられることは国を誤った方向に進ませてしまうものだという意識をもって、単元の課題に答えようとし、知識の習得に意欲的であったり、これまで学習したことを振り返ろうとしたり、人の意見を聞いて参考にしようとする態度であると考え、それらを促すような問いや学習形態の工夫を行う。

- 生徒のこれまでの学びをもとに、既成概念をゆさぶる事実を示し、意欲的に追究できるようにする。
- 授業で使った資料や、授業をすすめながら完成した表をいつでも見ることができるように教室に掲示することで、思考を深める手立てとする。
- 班活動やペア活動を取り入れ、意見の交換によって思考を促す。
- 選挙についてはシミュレーションで学習し、体験によって理解を促す。

③ 評価活動の工夫

振り返りシートを活用し、学習の最後に自分の学びを振り返る時間を確保して、これまで学んだ個別的知識を価値的知識として使えるようにするとともに、民主主義に対する自分の考えの変化がわかるようにする。教師は、正しく理解されているかを確認し、思考を促すよう支援をすることができる。

4. 単元構造図

単元「民主主義とは何か ～現代の民主政治を評価する～」

単元目標

現代社会を評価することを通して、民主主義の推進について多面的・多角的に理解する。

【価値的知識】

民主主義は、人間が創りだした政治形態の中で最良の政治形態であると考えられている。しかし、国民の幸福を実現することのできる「完全な政治形態」とは言えず、国民の不断の努力がなければ、常に腐敗する危険性をもっている。国民の意見を取り入れることのできる政治の仕組みを確立し、政策の実行・評価を積み重ね、国民と政治家が日本の諸問題に共に向き合っていくという「政治への信頼」が必要である。また、マスメディアの報道の自由や教育の中立性が保たれ、国民の言論の自由が保障される中から世論が形成されることも民主主義を成立させる前提である。より良い民主主義を実現させるため、主権者は政治に関心をもち、参画する意識をもたなければならない。

問い：現代社会を「民主主義」という観点から評価すると何が見えてくるだろうか

創造的
思考力・判断力

【民主主義を評価する際に働かせる概念】 別紙②

- ・国民が平等に、政治に参加する権利を行使することが民主主義を支える土台である。
- ・政党は、国民の意思を政治に反映させるように機能しなければならない。
- ・自由に議論する環境を整えることが民主主義を成立させる。

【概念的知識】 選挙の仕組み

- ・選挙制度は国民の意思をできるだけ正確に反映できるものでなくてはならない。
- ・政党は国民の意思と政治をつなぐ働きをしている。

【個別的知識】

選挙制度 棄権の増加
一票の格差と合区 政党の働き

選挙の仕組み

【歴史学習で習得した概念】別紙①

未熟な民主政治は戦争を止めることができなかった。

- ・男子普通選挙だったこと
- ・国民の声を反映できない政党
- ・統帥権の問題（軍部の暴走を止めることができない統治のしくみ）

現代社会における民主主義はどうあるべきか。

【概念的知識】 世論・マスメディア

- ・公正な世論形成のためには、情報を適切に取り入れ、知る権利が保障されなければならない。
- ・マスメディアの報道の自由の保障が世論形成には必要である。

【個別的知識】

世論形成 マスメディアの影響
メディアリテラシー

世論・マスメディア

【歴史学習で習得した概念】別紙①

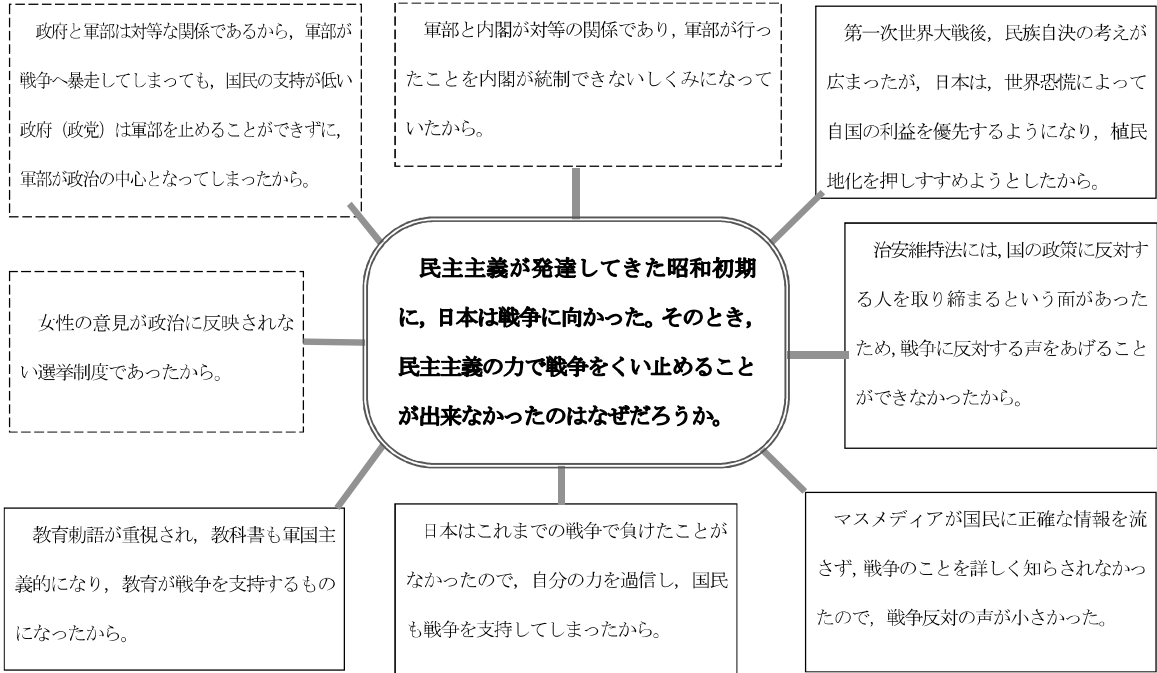
未熟な民主政治は戦争を止めることができなかった。

- ・言論の自由を制限する制度
- ・情報統制
- ・批判的に情報を読む力の未熟さ
- ・他国を侵略することで問題を解決しようとする主張に同調した世論
- ・特定の思想に偏った教育

単元名：アジア太平洋戦争

単元の問い：民主主義が発達してきた昭和初期に日本は戦争に向かった。その時、政府や国民の力で戦争をくい止めることができなかったのはなぜだろうか。

別紙①

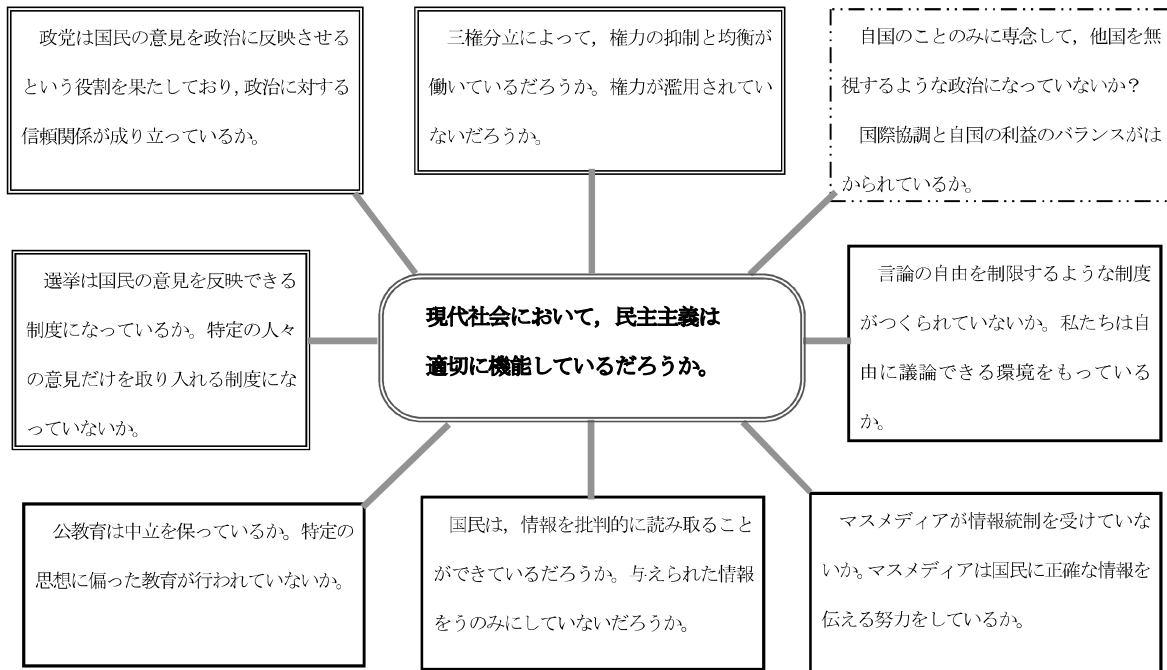


単元名：民主主義とは何か ～現代の民主政治を評価する～

民主主義評価基準シート

別紙②

単元の問い：現代社会における民主主義はどうあるべきか。



5. 単元を通して育成したい思考力・判断力

評価規準		評価資料
B 評価	手立て	
単元で学んだ知識や、これまでの歴史学習で得た知識をもとに、民主主義をより良いものにするにはどうすべきかを考えることができる。	これまでの学習の成果を記録した掲示物を示し、有権者としてどのような行動をとるべきかについてヒントを与え、具体的な行動を記述できるようにする。	発言 振り返りシート

6. 単元の指導計画（全7時間） ■教師の働きかけ ●生徒による働きかけ ◎評価活動

時	「問い」とおこなう学習活動	思考力・判断力を育成する手立て
1	<p>問い：民主的に決定するとはどういうことか。</p> <p>○「民主主義とはどんなことか」自分の言葉で書いてみる。</p> <p>○直接民主制の例をあげて考える。</p> <p>○多くの場面で代表を出して話し合いが行われる（間接民主制）のはなぜか考える。</p> <p>○話し合っても意見が一致しなかったとき、どのように決定するか、教科書の「多数決について考えよう」についてグループで話し合う。</p>	<p>■生徒が自分の民主主義についての考え方の変遷をわかりやすいように、単元のはじめの自分の考えを記録しておく。</p> <p>●ペアで意見交換する</p> <p>■一部の人の意見で決めるのではなくて、話し合いをして、より多くの人が納得できる方法で決めるのが民主主義だという考えに対して、多数決のやり方にもいろいろあること、より多くの人が納得できる話し合いの難しさを体験させる。</p> <p>■民主主義と言いながら、特定のグループの（個人の）考えに誘導されることもあることをおさえる。</p>
2 ・ 3	<p>問い：選挙はどのように行われ、どのような課題があるだろうか。</p> <p>○選挙の歴史を振り返り、選挙の基本原則を理解する。</p> <p>○「選挙のシミュレーション」をする。</p> <p>○小選挙区と大選挙区、比例代表制の特色をまとめ、日本の国会議員選出選挙のしくみを知る。</p> <p>○日本の選挙の課題として、「棄権の増加」、「一票の格差」の問題を資料をもとに考える。</p>	<p>■歴史学習で学んだ概念的な知識を想起して、選挙の基本原則を理解させる。</p> <p>■選挙のシミュレーションを通して、同じ地域で同じ選挙行動をしても、小選挙区か大選挙区かによって選挙結果が大きく異なることがあることを体験的に考えさせる。</p> <p>■若い世代ほど選挙に行くかどうかは個人の自由と考える人が多く、高齢の世代ほど国民の義務と考える人が多くなることをおさえ、本時の問いを考える材料とする。</p>
4	<p>問い：政党はどのような働きをしているか。</p> <p>○選挙で投票する立候補者を選ぶとき、最も多くの有権者が基準としていることは何か考える。</p> <p>○日本の政党政治について知る。 政党制の種類（二大政党制・多党制） 与党の役割・野党の役割・連立政権</p> <p>○各政党のマニフェストを比較しながら考える。</p>	<p>■有権者は立候補者個人よりも政党を基準に選んでいることをもとに、政党の役割を考えさせる。</p> <p>■マニフェストを見ることによって、政党がどのように国民に政策をアピールしようとしているかを見せる。その際、マニフェ</p>

	<p>マニフェストを比べるときに気をつけなければならないことは何だろうか。 マニフェストが大切なのはいつだろうか。</p>	<p>ストを批判的に読むように促す。</p>
5	<p>問い：政治上の判断をするための情報を得るとき、私たちが気をつけるべきことは何だろうか。</p> <p>○マスメディアが「第四の権力」と言われるのはなぜか考える。 ○新聞を読み比べ、新聞記事の違いから、何に気を付けるべきかを話し合う。 ○メディアリテラシーとは何か。</p> <p>○公正な世論を形成するために、自分たちがすべきことを考える。</p>	<p>■マスメディアが世論の形成に影響を与える資料から本時の問いをもたせる。</p> <p>■マスメディアには情報の信頼性に差がありそれを意識して情報を取り入れていかなければならないことをおさえる。</p> <p>■●新聞の読み比べを通して、同じ出来事でも新聞社によって、異なる記事が出来ることを体験させる。</p>
6 ・ 7 本 時	<p>問い：現代の社会を「民主主義」という観点から評価すると何が見えてくるだろうか。</p> <p>○第二次世界大戦のまとめの表から、民主主義を診断するポイントを考える。(班活動) ○現代社会の問題点をポスターにまとめる。(放課後の時間を利用して作成)</p> <p>○現代社会レポートのポスターセッションをする。「民主主義診断シート」をもとに、発表した内容が民主主義の危機にどのように関わる問題かを判断し、危険度を色であらわす。(班活動) ○なぜ、そのように判断したのかを発表する。</p> <p>○「民主主義をより良いものにするために何をすべきか。」という問いに対する自分の考えを書く。</p>	<p>■「現代の社会では○○○になっていないだろうか。」「現代の社会は△△△できているだろうか。」という形にまとめさせる。</p> <p>■歴史を題材にしなが、これまで公民で学習してきた知識も加味して「民主主義診断シート」を作成させる。</p> <p>■なぜ、その事実が民主主義の危機になるのかをはっきりさせ、どのようなことにつながる危険性があるのかを質問などで明らかにさせる。</p> <p>●◎ポスターセッションで得た情報を班に持ち帰り、危険度を評価させる。</p>

7. 本時の学習

(1) ねらい

歴史で学んだ「民主主義の危機」の概念を用いて、現代社会の問題のいくつかを、民主主義に関わる重要な課題であることに気づくとともに、民主主義は国民の不断の努力によって機能させていくものだというを理解する。

(2) 展 開

	学習活動	指導上の留意点
導 入	<p>1. 前時のふりかえりをする。 第二次世界大戦のまとめの表から、民主主義を診断するポイントを考えた。</p>	<p>■歴史で学習したことを想起しながら、現代の問題を考えていくことをおさえ、歴史と公民の授業で作成した表を準備させる。</p>

	<p>民主主義を診断するポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三権分立によって、権力の抑制と均衡が働いているだろうか。 ○政党は国民の声を政治に反映するという役割を果たしているだろうか。 ○選挙は国民の意見を反映できる制度になっているか。 ○私たちは自由に議論する環境をもっているか。 ○マスメディアが情報統制を受けていないか。 ○国民は、情報を批判的に読み取れているだろうか。○特定の思想に偏った教育が行われていないか。 ○自国のことだけに専念して、他国を無視するような政治になっていないか。 	
<p>展開</p>	<p>問い：現代社会を「民主主義」の視点から評価すると何が見えてくるだろうか。</p> <p>2. ポスターセッションをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者は、民主主義の診断ポイントのどれに関わる問題だと考えたかを明らかにする。 ・聞き手は、なぜその事実が民主主義を危うくするのかを理解できるよう、質問する。 <p>3. 発表を班で吟味する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「民主主義」の視点から事象を評価し、危険度を色で表す。 ・なぜ、そのような評価をするのかを説明できるようにする。 <p>4. 評価をポスター上に表し、全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険度を高く評価した理由を説明する。 ・他の班と違う評価をしたものについて説明する。 	<p>■ポスターは、現代の社会で問題になっている事柄の中から、民主主義に関わると考えたものを取り上げ、班で作成させる。</p> <p>思考を働かせる方法</p> <p>①何が今問題になっているか、要点を絞る。</p> <p>②昭和初期にはどのような問題が起こったかを思い出し、もしこの問題がそのままにされると、どんなことが引き起こされるかを予想する。</p> <p>●◎ポスターセッションで得た情報を班に持ち帰り、情報交換して危険度を評価させる。</p> <p>■マスメディアの情報をうのみにすることなく、複数の情報源を利用するなどして判断する習慣を身につけるなど自分たちがすべきことがあることに気づかせる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>5. 単元のまとめとして、民主主義をより良いものにするために何をすべきか自分の考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で書く。 ・ペアで交換しあったのち発表する。 	<p>■政治への無関心についての評価には必ずふれ、民主主義の危機に繋がる重大な問題であることを認識させる。</p> <p>■単元の最初に自分が書いたものと比べ、どのような変化があるかについても触れる。</p>

(3) 期待される生徒の姿

選挙権を大切に行使することやメディアリテラシーを身につけるなどの民主主義を支える国民としての具体的な行動を書くことができる。